

# 香川県埋蔵文化財センター年報

令和3年度

## 香川県埋蔵文化財センター研究紀要X

2023.1

香川県埋蔵文化財センター

## はじめに

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和62年11月1日に設置されました。

令和3年度は、国道バイパス建設、県所管国道整備、県道整備、笠田高校改築に伴う埋蔵文化財の発掘調査及び、国道バイパス建設、県所管国道整備、県道整備、養護学校建設に伴う発掘調査の整理、報告書刊行をはじめ、出土品の保管、讃岐国府跡調査事業、地域総合調査研究事業などを実施しました。そして、これらの調査や整理によって得られた多くの成果をもとに、展示や体験講座、考古学講座などの普及啓発業務を行い、埋蔵文化財の保護意識の向上に努めました。

本書は、令和3年度に実施した事業の内容をまとめたものです。本書が地域の歴史や文化の理解への一助になれば幸いです。

最後になりましたが、ご指導、ご協力をいただいた関係各位にお礼を申し上げますとともに、今後とも当センターの活動に皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年1月

香川県埋蔵文化財センター  
所長 高原 康

# 香川県埋蔵文化財センター年報 令和3年度

## 本文目次

I 組織・施設・決算	1
1 香川県埋蔵文化財センターの組織	1
2 施設の概要	2
3 決算の状況	3
II 事業概要	4
1 埋蔵文化財調査事業	4
城泉遺跡・城泉東遺跡	6
赤坂古墳群	11
笠田竹田遺跡	14
岡遠田遺跡	20
沖南遺跡	24
青海中村遺跡	27
2 普及・啓発事業	31
(1) 展示	31
① 香川県埋蔵文化財センターでの展示	31
② 香川県埋蔵文化財センター以外での展示	31
(2) 発掘現場現地公開	31
(3) 講師の派遣	32
① 体験講座など	32
② その他	32
(4) 体験講座	32
(5) 考古学講座	32
(6) 人材育成講座	32
(7) まいぶんボランティア活動	33
(8) 新聞記事掲載	33
(9) 資料の貸出・利用	33
(10) 職場体験学習・インターンシップ	33
(11) 刊行物	33
(12) ホームページ	33
3 讃岐国府跡調査事業	34
(1) 地域との交流	34
(2) 情報発信	34
(3) 関連行事	34
(4) 讃岐国府跡調査事業調査成果の概要	35
4 地域総合調査研究事業の成果	40

# 挿図目次

第1図	発掘調査遺跡位置図 (1/800,000)	5
城泉遺跡・城泉東遺跡		
第2図	遺跡位置図 (1/25,000)	6
第3図	城泉遺跡 遺構平面図 (1/200)	7
第4図	城泉東遺跡 遺構平面図 (1/300)	10
赤坂古墳群		
第7図	遺跡位置図 (1/25,000)	11
第6図	遺構平面図 (1/150)	13
笠田竹田遺跡		
第7図	遺跡位置図 (1/25,000)	14
第8図	調査区配置図 (1/1,200)	15
第9図	遺構配置図 (1/150)	16
第10図	壁断面及びSB2001・2002平・断面図 (1/100, 1/60, 1/40)	17
岡達田遺跡		
第11図	遺跡位置図 (1/25,000)	20
第12図	遺構平面図1 (1/800)	22

# 写真目次

城泉遺跡・城泉東遺跡		
写真1	城泉遺跡完掘状況 (北から)	9
写真2	子持勾玉出土状況 (SK51) (北東から)	9
写真3	城泉東遺跡1区完掘状況西半 (南東から)	9
写真4	1区完掘状況東半 (南東から)	9
写真5	2区完掘状況 (西南から)	9
写真6	井戸で検出した竹 (SE18)	9
写真7	井戸から出土した広東碗	9
写真8	陶磁器出土状況 (SX22) (南東から)	9
赤坂古墳群		
写真9	【調査前】古墳検出状況 (南西から)	12
写真10	【調査前】古墳検出状況 (北西から)	12
写真11	玄室・天井石検出状況 (北東から)	12
写真12	玄室検出状況 (天井石除去後) (南西から)	12
写真13	石室右側壁検出状況 (北東から)	12
写真14	石室基石底付近断ち割りトレンチ掘削状況 (北東から)	12
笠田竹田遺跡		
写真15	調査区東部全景 (北西から)	19
写真16	調査区西部全景 (北から)	19
写真17	SB2001・2002全景 (南から)	19
岡達田遺跡		
写真18	13区遠景 写真中央がSH13000 (東から)	21
写真19	15区SK40土器出土状況 (南から)	21
写真20	11区SH11001完掘状況 (南から)	21
写真21	7区全景 写真中央がSH7007、左上がSH7020 (北から)	21
第13図	遺構平面図2 (1/800)	23
沖南遺跡		
第14図	遺跡位置図 (1/25,000)	24
第15図	遺構平面図 (1/250)	26
青海中村遺跡		
第16図	遺跡位置図 (1/25,000)	27
第17図	遺構平面図 (1/800)	30
讃岐国府跡調査事業		
第18図	遺跡位置図 (1/25,000)	35
第19図	近世遺構配置図 (1/200)	36
第20図	中世遺構配置図 (1/200)	37
第21図	中世以前遺構配置図 (1/200)	38
第22図	調査区位置図 (1/2,500)	39
地域総合調査事業		
第23図	令和3年度踏査対象地位置図	40
第24図	荒神島調査地点位置図	41
第25図	荒神島紀遺跡測量図 (1/800)	41

# 表目次

第1表	職員一覧	2
第2表	発掘調査決算	3
第3表	整理・報告決算	3
第4表	管理運営費等決算	3
第5表	発掘調査遺跡一覧	4
第6表	遺跡の概要一覧	4
第7表	整理・報告遺跡一覧	5
第8表	刊行報告書一覧	5
第9表	展示一覧	31
第10表	入館者数一覧	31
第11表	センター外展示一覧	31
第12表	現地説明会一覧	31
第13表	体験講座一覧	32
第14表	講演等への講師派遣一覧	32
第15表	体験講座実施事業一覧	32
第16表	考古学講座一覧	32
第17表	人材育成講座一覧	33
第18表	資料貸出・利用一覧 (数字は件数)	33
第19表	職場体験学習・インターシップ一覧	33
第20表	情報発信一覧	34
第21表	関連行事一覧	34

# 香川県埋蔵文化財センター研究紀要 X

令和3年度

## 目次

備讃瀬戸における高地性集落出土土器の検討 信里 芳紀□	42
香川県内出土須恵器の産地推定 白石 純・森本 蓮（岡山理科大学）	60
善通寺市五条遺跡（香川県警察丸亀警察署龍川駐在所地点）発掘調査報告 蔵本 晋司□	65

(註)

- 1 本書で用いる座標系は世界測地系（国土座標第Ⅳ系）で、標高は東京湾平均海面を基準とした。
- 2 遺構は次の略号により表示した。  
SH 堅穴建物    SB 掘立柱建物    SP 柱穴・小穴    SK 土坑    SE 井戸    SD 溝  
SR 旧河道    SX 性格不明遺構    SF 竈
- 3 遺跡位置図は国土地理院地形図（1/25,000）に遺跡位置を追記して掲載した。

# I 組織・施設・決算

## 1 香川県埋蔵文化財センターの組織

### (1) 組織



### (2) 職員

令和3年4月1日現在

所 属	職 名	氏 名
所 長		高 原 康
次 長		北 山 健 一 郎
総務課	課 長 ( 兼 務 )	北 山 健 一 郎
	副 主 幹	高 橋 範 行
	主 任	石 田 こ ず え
	主 任	松 浦 佐 和
	主 任	寺 尾 一 夫
	主 任	遠 山 豊
調査課	課 長 ( 兼 務 )	北 山 健 一 郎
	主任文化財専門員 (兼務)	小 野 秀 幸
	文化財専門員	長 井 博 志
	文化財専門員	森 格 也
	技 師	谷 本 峻 也
	技 師	稲 垣 僚
	技 師	溝 上 千 穂
	会計年度任用職員 (設計)	熊 野 博 実
	会計年度任用職員 (調査補助員)	今 井 由 佳
	会計年度任用職員 (調査補助員)	名 倉 美 保
	会計年度任用職員 (調査補助員)	徳 永 貴 美
会計年度任用職員 (調査補助員)	正 本 由 希 子	

資料普及課	課 長	信 里 芳 紀
	主任文化財専門員	藏 本 晋 司
	主任文化財専門員	小 野 秀 幸
	文化財専門員	山 元 素 子
	文化財専門員	森 下 友 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	北 濱 敦 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	小早川 真由美
	会計年度任用職員（整理作業員）	土 井 美 穂
	会計年度任用職員（整理作業員）	中 野 優 美
	会計年度任用職員（整理作業員）	加 藤 恵 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	大 山 和 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	小 林 奈 充 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	山 本 基 公 美
	会計年度任用職員（整理作業員）	佐 立 晶 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	池 内 妙 子
	会計年度任用職員（整理作業員）	大 林 真 沙 代
	会計年度任用職員（整理作業員）	森 后 代
	会計年度任用職員（整理作業員）	池 田 匠

第 1 表 職員一覧

## 2 施設の概要

- (1) 所在地 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
- (2) 敷地面積 11,049.23㎡
- (3) 建物構造・延床面積
- |        |                              |           |
|--------|------------------------------|-----------|
| ①本 館   | 鉄筋コンクリート造・2階建<br>(一部鉄骨造・平屋建) | 1,362.23㎡ |
| ②分 館   | 軽量鉄骨造・2階建                    | 337.35㎡   |
| ③第1取蔵庫 | 鉄骨造・2階建                      | 1,525.32㎡ |
| ④第2取蔵庫 | 鉄骨造・3階建                      | 2,040.33㎡ |
| ⑤車 庫   | 鉄骨造・平屋建                      | 29.97㎡    |
| ⑥自転車置場 | 鉄骨造・平屋建                      | 25.00㎡    |



### 3 決算の状況

(単位：千円)

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	城泉・城泉東遺跡・赤坂古墳群	31,115
道路課	岡遠田遺跡	53,352
	青海中村遺跡	34,397
	沖南遺跡	24,561
高校教育課	笠田竹田遺跡	2,069

※職員人件費は除く。

第2表 発掘調査決算

(単位：千円)

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	内間遺跡	23,275
	城泉遺跡(基礎整理)	3,906
道路課	横井南原遺跡外	24,974
	岸の上遺跡	22,643
	沖・沖南遺跡(基礎整理)	1,870
特別支援教育課	旧練兵場遺跡(整理・報告書)	6,761

※職員人件費は除く。

第3表 整理・報告決算

(単位：千円)

事業名	決算	
管理運営費等	管理運営費	4,821
	職員給与費	112,829
	讃岐国府跡調査事業	7,301
	地域総合調査研究事業	995
合計	125,946	

第4表 管理運営費等決算

## II 事業概要

### 1 埋蔵文化財調査事業

発掘調査を分掌する調査課では調査班2班を編成し、国道バイパス建設、県所管国道整備、県道整備に伴う5遺跡の発掘調査を行った。また、緊急に調査が必要となった笠田高校改築に伴う笠田竹田遺跡の発掘調査と岡遠田遺跡のため池の堤体部分の発掘調査も追加で実施した。

一方、報告書作成を分掌する資料普及課では整理班2班を編成し、国道バイパス建設、県所管国道整備、県道整備、養護学校移転に伴う7遺跡の整理及び1冊の報告書の刊行を行った。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間
国土交通省	国道11号 大内白鳥 バイパス	城泉・城泉東遺跡	東かがわ市白鳥	1,527	6月～9月
		赤坂古墳群	東かがわ市椿来	400	10月～11月
道路課	国道438号	岡遠田遺跡	丸亀市飯山町	3,818	4月～6月 11月～3月
		沖南遺跡	丸亀市飯山町	1,749	12月～3月
	高松坂出線	青海中村遺跡	坂出市青海町	2,242	7月～11月
高校教育課	笠田高校 改築	笠田竹田遺跡	三豊市豊中町	510	6月

第5表 発掘調査遺跡一覧

遺跡名	遺跡の概要	主な遺構・遺物
城泉東遺跡	鎌倉～江戸時代の集落遺跡	柱穴跡、溝状遺構、井戸跡等 縄文土器、陶磁器等
城泉遺跡	古墳時代の集落遺跡	掘立柱建物跡、溝状遺構等 土師器、子持勾玉、白玉等
赤坂古墳群	移築された古墳	移築された横穴式石室
岡遠田遺跡	弥生～室町時代の集落遺跡	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、廃棄土坑 弥生土器、須恵器、土師器、玉類等
沖南遺跡	弥生～室町時代の集落遺跡	河川跡、溝状遺構、掘立柱建物跡等□ 弥生土器、石器、須恵器、土師器、陶磁器等
青海中村遺跡	鎌倉～明治時代の集落遺跡	柱穴跡、石組貯水施設等□ 須恵器、土師器、陶磁器等
笠田竹田遺跡	弥生～古墳時代の集落遺跡	掘立柱建物跡等 須恵器、土師器等

第6表 遺跡の概要一覧

原因者	遺跡名	所在地	整理期間
国土交通省	内間遺跡	東かがわ市湊	5月～11月
道路課	横井南原遺跡	高松市香南町	10月～3月
	上道池東遺跡	高松市香南町	10月～3月
	池内古田遺跡	高松市香南町	12月～3月
	池内御所原遺跡	高松市香南町	12月～3月
	岸の上遺跡	丸亀市飯山町	4月～9月
特別支援教育課	旧練兵場遺跡	善通寺市善通寺町	4月

第7表 整理・報告遺跡一覧

書名
県立善通寺養護学校移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 旧練兵場遺跡（第26次調査）
香川県埋蔵文化財センター年報 令和2年度
埋蔵文化財試掘調査報告33 令和2年度 香川県内遺跡発掘調査

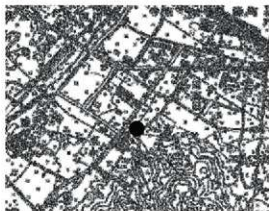
第8表 刊行報告書一覧



第1図 発掘調査遺跡位置図（1/800,000）

## 城泉遺跡・城泉東遺跡

城泉遺跡・城泉東遺跡は、東かがわ市白鳥に位置する。国道11号大内白鳥バイパス建設に伴い、令和3年6月～9月の期間、発掘調査を実施した。城泉遺跡は平成23年度から断続的に調査を実施してきた遺跡で、今回は4次調査となった。両遺跡は、讃岐山脈北縁部の石植山(標高267m)より北へ延びる舌状丘陵の北端、沖積平野との接点の丘陵上及びその東斜面部に位置する。調査面積は城泉遺跡が320㎡、城泉東遺跡が1,207㎡である。調査区は工程の都合から3つに分け調査を行った。



第2図 遺跡位置図(1/25,000)

### 城泉遺跡

これまでの調査は遺跡の西側から順に実施しており、平成23年度の調査では弥生時代後期～7世紀中頃まで機能したとみられる旧河道や、旧河道が埋まった後に営まれた小規模な集落跡が見つかった。また、平成30年度の調査では竪穴建物跡が5棟見つかったことで古墳時代中期に集落があったことが分かった。そして、令和2年度の調査では古墳時代中期の集石土坑や古墳時代中期以前の焼土坑が見つかった。

今年度の調査の結果、遺構検出面を2面確認した。第1遺構面では数基の柱穴と溝を1条検出したものの、明確な年代の基準となる遺物は出土しなかった。一方、第2遺構面では古墳時代中期の集落跡や後期の土坑が見つかった。

古墳時代中期の集落跡を構成する遺構として、総柱建物跡1棟(SB40)、溝状遺構1条や柱穴跡が見つかった。総柱建物跡の規模は梁間2間(4.2m)×桁行3間(4.5m)の正方形に近い形で、遺物は建物跡を構成する柱穴から土師器高杯や小型丸底壺の小片が出土している。総柱建物で平面形が正方形に近いことから、物資を保管する倉庫として利用されたと推定できる。

古墳時代後期に位置付けられる土坑1基(SK51)は調査区の北西隅で検出した。この土坑で特筆すべき点は祭祀具である滑石製の子持勾玉1点・白玉17点が出土したことである。子持勾玉は古墳時代後期に位置づけられるもので、長さ約8cm×厚さ約1.5cmで、身が斜めに傾いた状態で出土した。

今回の調査で発見した古墳時代中期の集落跡は、これまでの調査で見つかった集落跡に関連すると考えられる。また、出土した子持勾玉は香川県内で初例の可能性のある貴重な資料である。

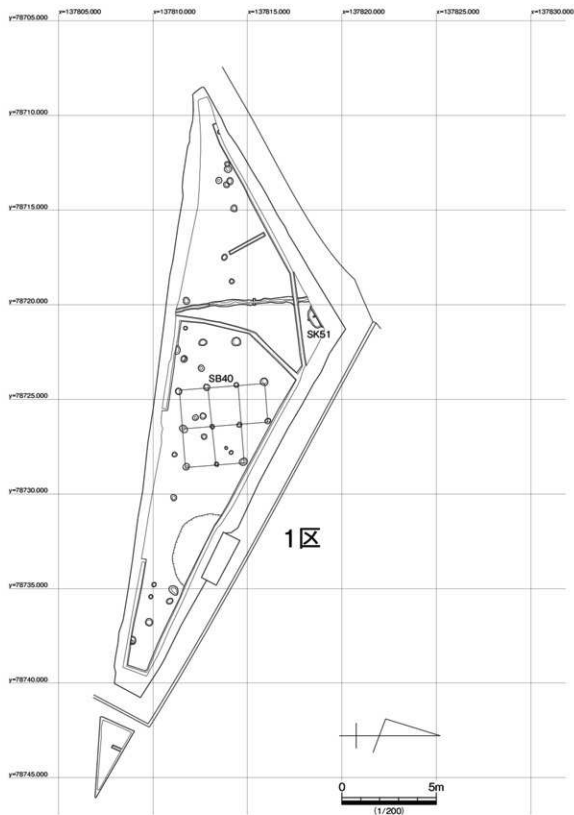
### 城泉東遺跡

城泉東遺跡は城泉遺跡の数m東に位置する遺跡で調査の結果、江戸時代の集落跡を中心として、縄文時代～江戸時代までの遺構・遺物を確認した。調査区は現在でも利用されている生活道路を基準として西側を1区、東側を2区に分割して、調査を行った。

#### 〈1区〉

調査の結果、遺構検出面を2面確認した。第1遺構面は調査区の北部のみに広がる小規模なもので、

検出した遺構も数基の柱穴や溝で、明確な年代を示す遺物は出土していない。第2遺構面も同様に遺構は希薄で、特筆すべき遺物も出土していない。しかし、埋土がグライ化した土坑が1基（SK09）と溝



第3図 城泉遺跡 遺構平面図 (1/200)

の端を掘り下げた遺構が一ヶ所（SD01）見つかったため、土坑に水を貯めるなどして土地利用していた可能性がある。

〈2区〉

調査の結果、江戸時代の遺構を数多く確認した。中でも特筆すべき遺構は竹が突き刺さった状態で見つかった井戸（SE18）である。この竹は節がくり抜かれ中空となっており、このように竹を突き刺さす背景には土中のガス抜きといった実用的な理由や、息抜きの竹といったように土中の神様が息をできるようにといった信仰的な理由があると考えられる。また、井戸内の堆積土からは18世紀末～19世紀初頭に位置づけられる広東碗が出土しており、年代の指標となる。

さらに、井戸他にも陶磁器が一定数出土し、水が多量に湧き出る上に井戸特有の土層堆積をするため井戸の可能性のある性格不明遺構（SX22）がある。

〈下層確認〉

今回の調査では、城泉東遺跡1区のSK09を掘削中に縄文晩期の土器片が1点出土した。そのため、下層に縄文時代の遺構がある可能性があると考え、2区で下層確認を実施した。その結果、遺構を確認するまでには至らなかったものの、縄文中期の土器片が1点、SX22の北側から出土した。

今回の調査で、2区から検出した複数の遺構から数多くの陶磁器類が出土したことから、江戸時代後期に集落跡があったことが明らかになった。また、1区についても遺構面の土色が類似する点から1区も含めた集落跡だったと考えられる。さらに、下層確認で出土した縄文土器は遺構に伴わない上に異なる時期のものが2点出土したことから流水などによって運ばれてきた可能性がある。



写真1 城泉遺跡完掘状況(北から)



写真2 子持勾玉出土状況(SK51)(北東から)



写真3 城泉東遺跡1区完掘状況西半(南東から)



写真4 1区完掘状況東半(南東から)



写真5 2区完掘状況(西南から)



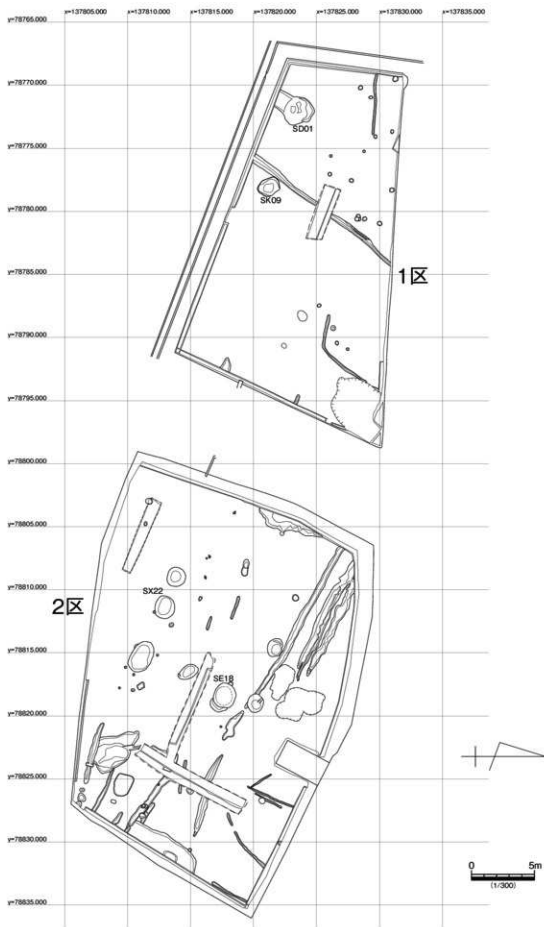
写真6 井戸で検出した竹(SE18)



写真7 井戸から出土した広東碗



写真8 陶磁器出土状況(SX22)(南東から)



第4図 城泉東遺跡 遺構平面図 (1/300)



## あかきか 赤坂古墳群

赤坂古墳群は、東かがわ市帰来に位置する。「白鳥町史」では古墳時代後期から終末期にかけて営まれた小規模な群集墳とされる。今回、国道11号大内白鳥バイパス建設に伴い、その1基について発掘調査を実施した。本墳は南北に延びる大きな丘陵から東側に派生する尾根の斜面部に立地する。



第5図 遺跡位置図 (1/25,000)

調査対象となった古墳は横穴式石室墳であり、現状では宅地の一角に位置する。本墳が構築された斜面は本来、勾配がきついものの、宅地造成が行われた結果、本墳の周囲は平坦化されていた。また、調査前の状況

としては、玄室とこれに伴う天井石の付近に盛土が残存していた。そして、玄室の東側にはさらに古墳本来のものとは考えられない盛土と石垣も見られた。その一方で、羨道はほとんど失われていた。

このように後世の改変が大きい本墳については、地元の郷土史家が記した「白鳥昔語り」などに下記のような記述がある。

「昭和40年代に古墳が所在する畑の所有者たちが石室内を掘削し、床面に礫が敷き詰められていることを確認した。また、この際に須恵器の杯・壺・提瓶・ハソウ等が出土した。その後、昭和40～50年代に畑の造成により、古墳が損壊したため、地元の有志が復元した。」

これらの記載より、古墳はある程度破損していると予測された。ただ、具体的な破損状況は不明であるため、比較的旧状を留めるように見える玄室付近を調査の主眼としつつ、後世の破損部分を見極めながら発掘調査を進めた。

調査の結果、本墳で見られる石室および墳丘盛土は全て後世の構造物であると考えられる。

このように判断した理由は、①石室の奥壁・側壁や天井石の組み方が非常に粗い。②古墳が所在する畑の所有者たちが確認した礫床が見られない。③墳丘の盛土はかなりしまりが悪い黄褐色土・茶褐色土であり、これらの土層からは近代以降に属する陶器片やコンクリート片が出土した。④玄室と羨道の全ての基底石について付近の堆積土に対する断ち割りトレンチを掘削し、本来の盛土や床面整地土などの有無を確認したものの、墳丘の盛土と同様になりにしまりが悪い黄褐色土しか確認できなかった。特に、④は古墳の築造当初の状況をうかがうものであるが、このような状況であった。このため、古墳全体が本来の状況をとどめていないと判断した。

また、古墳の解体終了後、周辺部も含めて未確認の基底石やその抜き取り穴等の検出を試みたが、確認できなかった。

ただ、「白鳥昔語り」では破損した古墳を復元したことが記されている。このため、今回調査した石室の石材はこの古墳本来のものが多く転用されたと考えられる。また、これらの石材には1mを超える大形のものも含まれることから、古墳が構築されていた位置もこの付近であったと見られる。

## まとめ

地で「復元古墳」とも呼称されていた本墳について発掘調査を実施した結果、残存していた石室および墳丘盛土は全て後世の構造物であると明らかになった。ただ、石室の復元に際しては、古墳本来の石材が多く転用されたと見られる。また、古墳の本来の所在地も近隣であったと判断された。

赤坂古墳群のうち、別の1基は本墳の南東約100mの位置に現存する。やはり横穴式石室墳であり、玄室付近が残存している。今後は本墳の調査で得られた知見を踏まえながら、赤坂古墳群を東かがわ市域の古墳時代の中で位置づけることが必要である。



写真9 【調査前】古墳検出状況(南西から)



写真10 【調査前】玄室内検出状況(北西から)



写真11 玄室・天井石検出状況(北東から)



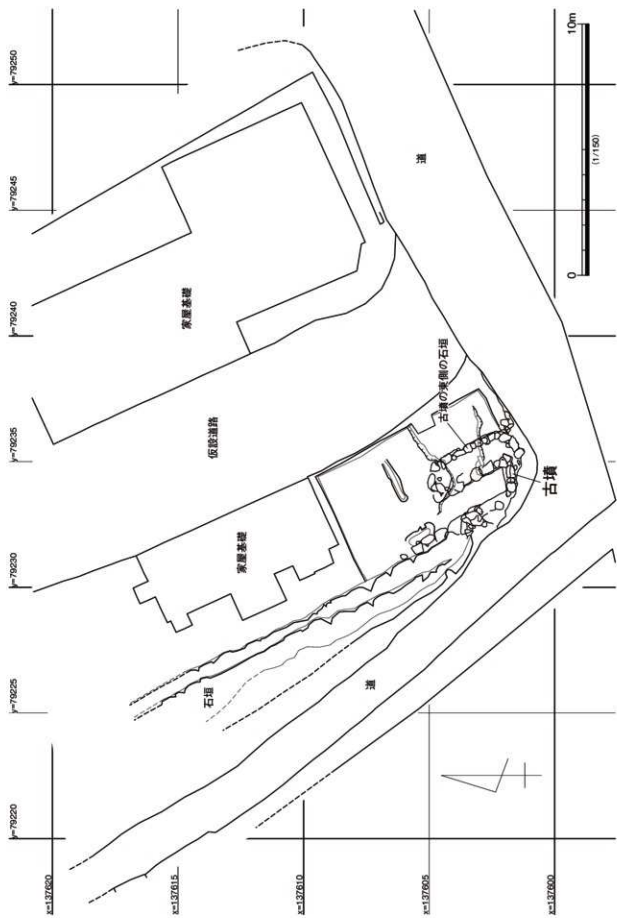
写真12 玄室検出状況(天井石除去後)  
(南西から)



写真13 石室右側壁検出状況(北東から)



写真14 石室基底石付近断ち割りトレンチ  
掘削状況(北東から)



第6図 遺構平面図 (1/150)

## かきだたけだ 笠田竹田遺跡

### 1. 調査の経緯と経過

香川県立笠田高校の校舎等改築事業に関しては、令和2年度より生涯学習・文化財課及び埋蔵文化財センターは原因課である高校教育課と事業地内の埋蔵文化財の取扱いについて協議を開始し、同事業は、校舎等の既存建物解体後、建築工事を実施する計画であるが、事業予定地内及び隣接地に周知の埋蔵文化財包蔵地が所在していないことから、一先ず解体工事に伴い工事立会を実施し、包蔵状況を確認することで合意した。

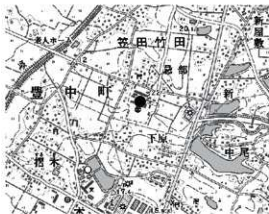
令和2年9月には、プール施設解体に伴う工事立会において、埋蔵文化財の包蔵を確認し、「笠田竹田遺跡」として周知されたため、同年11月には校舎棟建設予定地に含まれる既存建物間の前庭部等において試掘調査を実施した結果、地下遺構・遺物の包蔵を確認し、510mの本発掘調査が必要と判断された。

その後、工事計画と事業予定地内の埋蔵文化財の取扱い協議、調整を重ねた結果、令和3年6月に本発掘調査を実施する運びとなった。本発掘調査は、同年6月1日に開始し、天候にも恵まれて現地作業が順調に推移し、6月30日に現地を撤収した。

また、本発掘調査に合わせて同年6月及び9月、自転車置場等の建設予定地の試掘調査を実施し、地下遺構の包蔵状況の確認を行ったが、遺構・遺物は確認されなかったため、同事業実施に係る埋蔵文化財の取扱いに関する協議を終了している。

### 2. 遺跡の位置

笠田竹田遺跡は、香川県西部に広がる三豊平野の中央部の標高17m付近の洪積台地上に立地している。周辺の遺跡は、弥生時代以前は不明確な点が多く残るが、古墳時代中期には遺跡西側約2kmの七宝山東麓に初期須恵器窯である宮山窯跡が、同東側約1kmには周溝を備えた直径約30mの円墳である大塚古墳が存在する。古代には遺跡より東へ約300mの位置に駅路である南海道推定ラインが南北に貫け、妙音寺跡や道音寺跡などの飛鳥時代後半から奈良時代初頭の古代寺院が存在している地域である。



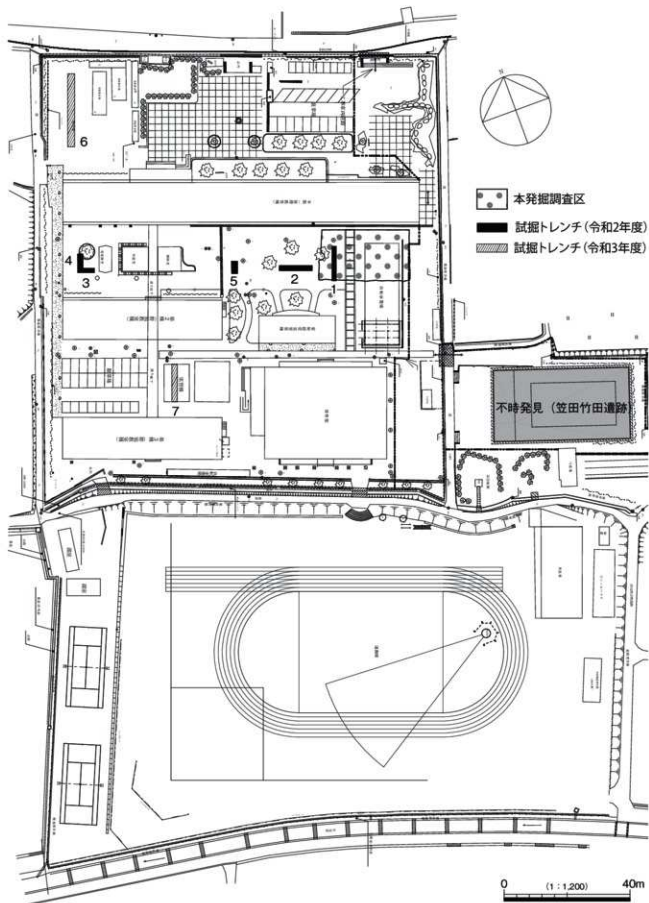
第7図 遺跡位置図 (1/25,000)

### 3. 調査の成果

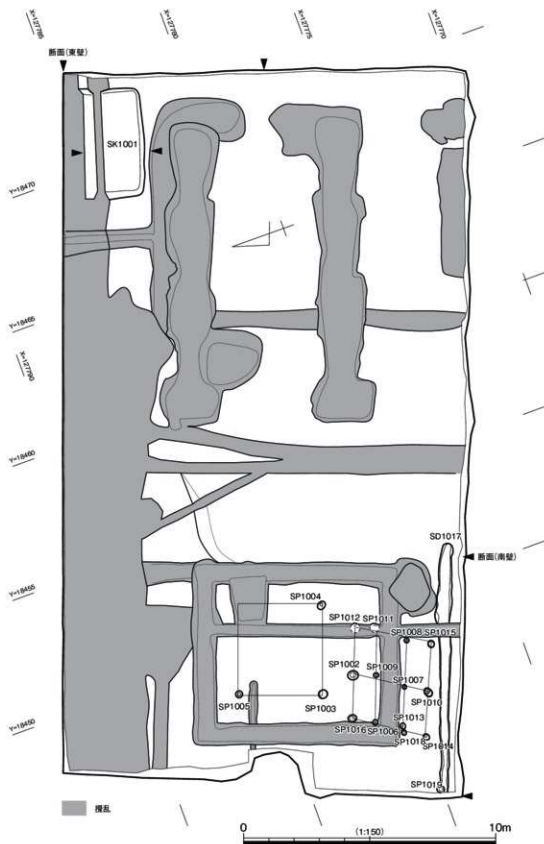
#### (1) 層序

着手前は、調査区西半部が前庭、東半部が自転車置場として利用されていた。地表面下は既存建物及び校庭等の建設に伴う造成土がみられ、その下面が遺構検出面の黄灰色粘土の基盤層となる。基盤層上面に遺物包含層が一切介在しない状況からみて、遺構検出面は極度の削平を受けていると考えられる。

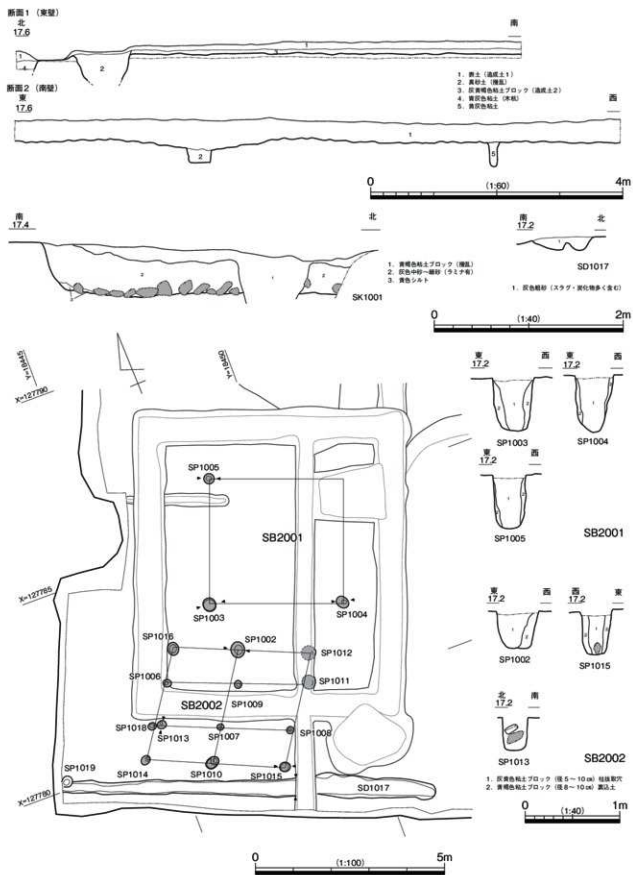
また、調査区内の各所において、造成土中より掘り込まれる既存建物の基礎とみられる攪乱を多く検出するなど、遺構検出面の遺存状態は不良と言わざるを得ない。



第8図 調査区配置図 (1/1,200)



第9図 遺構配置図 (1/150)



第10図 壁断面及びSB2001・2002平・断面図 (1/100, 1/60, 1/40)

## (2) 検出された遺構・遺物

### 1) 古墳時代以前

調査区南西部において柱穴群を検出し、その配置状況から2棟の建物を復元できる。

SB2001は、直径約0.3mの円形を呈する柱穴3基（SP1003～1005）が直角に配置されるもので、北東部は攪乱坑によって消失したものととして、1間×1間の建物として復元した。柱間からみて、堅穴建物の残欠である可能性が高く、一辺が5～6mの方形プランを推定できる。柱穴の残存深度は0.35～0.6mを測り、柱材は全て抜き取られ、壁際には裏込土とみられる黄褐色粘土ブロックが辛うじて残存している。遺物はSP1003より土器細片の出土をみたが、詳細な時期比定は困難である。

基盤層の黄灰色粘土を起源とする埋土をもつことや堅穴建物と推定されることからみて、概ね古墳時代以前と推定しておく。

SB2002は、梁行2間(3.6m)、桁行3間(3m)の小型の総柱建物である。平面形がやや歪みをみせるが、同様の歪みは小型の総柱建物においてしばしば確認されることや、共通した埋土をもつ柱穴がまともな検出されている状況を評価して建物として復元したものである。柱穴の残存深度は、側柱（SP1002、1013等）で約0.4～0.5m、東柱（SP1007、1009）で約0.2mを測り、柱材は全て抜き取られている。遺物は、柱抜取に際して砂岩礫が投棄されたSP1013から土器細片の出土をみたが、詳細な時期比定は困難である。埋土がSB2001と同様に基盤層起源のブロック土をもつことからみて、同様に古墳時代以前の遺構として推定しておきたい。

### 2) 近代

当該期の遺構は、調査区南西部のSD1017、同北東部のSK1001が挙げられる。

SD1017は、上面幅約0.6m、残存深度約0.15mを測る東西方向の溝であり、底面は凹凸が著しい。埋土は灰色粗砂の単一層であり、土管や成因不明のスラグが出土している。

SK1001は、北側を現校舎棟建設に伴う攪乱によって消失する方形土坑であり、東西方向では2.9mを測る。断面形状は逆台形であり、底面には砂岩礫が敷き詰められていた。出土遺物は、土管片に交じって5円硬貨（昭和24年鋳）が出土している。砂岩礫の性格は不明であるが、出土遺物からみて、昭和3年に香川県立三豊農業学校として創立された初期の笠田高校に伴う遺構と考えられる。

### 4. まとめ

小規模な調査であったが、古墳時代以前の集落を構成するみられる建物2棟（SB2001、2002）を検出するなど、当該期の調査事例が少ない三豊平野において貴重な資料が得られており、本遺跡周辺における今後の発掘調査の進展が期待される。





写真 15 調査区東部全景（北西から）



写真 16 調査区西部全景（北から）



写真 17 SB2001・2002 全景（南から）

## おかしおだ 岡遠田遺跡

岡遠田遺跡は九亀市飯山町上法軍寺に位置する。遺跡は岡田台地の中央北側に立地し、南北約450mの範囲に広がる。本遺跡の付近では弥生時代～室町時代の集落跡である東原遺跡や遠田遺跡、また古墳時代後期の竪穴建物跡などが検出された大窪谷遺跡などがある。

本遺跡の発掘調査は国道438号（飯山工区）建設に伴い、令和2年度から実施している。調査区は調査工程や進入路の都合などで16区に分け、今年度は7区～16区について発掘調査を実施した。

今年度の調査の結果、弥生時代後期、古墳時代後期、鎌倉時代～室町時代の集落跡を検出した。弥生時代後期の集落跡は遺跡の北側から中央部にかけて広がる。竪穴建物跡約10棟（建て替えを含む）、掘立柱建物跡、多量の弥生土器が廃棄された土坑などが見つかった。

弥生時代の竪穴建物のうち、11区SH11001ではガラス玉が10点出土した。この建物跡は平面形が円形であり、大きさは約7.5mを測る。床面には主柱穴跡7基が円形にめぐる。中央には炉跡があり、埋土下位には多量の焼土・炭を含んでいた。また、壁溝やベッド状遺構などを確認した。

出土遺物はガラス玉の他、弥生土器片、サヌカイト製の石鏃・チップがある。ガラス玉は小玉9点と管玉1点であり、いずれも床面付近で出土した。色調は薄緑色があったライトブルーと鮮やかなコバルトブルーがある。

ガラス玉は本遺跡では11区SH11001を除くと数点しか出土していない。また、県内の弥生時代の集落跡でガラス玉が出土した遺跡は10余りあるが、これらでも各遺跡で数点に留まる。このため、11区SH11001のガラス玉は県内の弥生時代集落ではまとまって出土した事例と言える。

一方で善通寺市旧練兵場遺跡では弥生時代のガラス玉が約300点出土している。本遺跡では当該期に属する多数の竪穴建物跡や遠隔地からもたらされた土器・石器・青銅製品（青銅鏡・銅鏃）などが数多く見つかり、大規模な交易拠点であったとされる。こうした旧練兵場遺跡の状況を考えると、岡遠田遺跡のガラス玉についても交易品として持ち込まれた可能性がある。

古墳時代後期の集落跡は遺跡の北側に広がり、竪穴建物跡2棟（7区SH7007、SH7020）、柱穴跡、溝状遺構などを検出した。2棟の竪穴建物跡はそれぞれ建て替えられており、平面形は方形、大きさは約4～5mを測る。また、どちらも建物跡の南辺部中央にカマドを伴っていた可能性がある。ただ、後出する別遺構に切られて破損が著しく、カマドの壁体や煙道などが明瞭に確認できなかったため、詳細は明らかでない。出土遺物には土師器甕などがある。

鎌倉時代～室町時代の集落跡は遺跡の北側と中央部南寄りに展開する。中央部南寄り集落跡を確認した場所は後世の耕地造成により地形が大きく改変されている。このため、集落跡の本来の姿は失われているものの、南側にある谷地形に向かって緩やかに下る斜面に位置する。検出遺構には掘立柱建物跡



第11図 遺跡位置図 (1/25,000)

を構成したと見られる柱穴跡の他、溝状遺構、土坑などがある。これらは小高い位置に柱穴跡が、谷地形に近い低位部に土坑や溝状遺構が偏る傾向がある。このため微高地上に建物群が位置し、低位部に土坑群などが分布したと考えられる。

まとめ

今年度の調査では、弥生時代後期から室町時代にかけての集落跡を確認した。

弥生時代後期の集落跡では竪穴建物跡を中心とする遺構を検出した。竪穴建物跡は昨年度の調査分を含めると、約20棟を数える（建て替えを含む）。また、これらの存続期間は概ね弥生時代後期中頃に限定されることが明らかになってきた。



写真18 13区遠景  
写真中央がSH13000（東から）



写真19 15区SK40 土器出土状況（南から）



写真20 11区SH11001 発掘状況（南から）



写真21 7区全景  
写真中央がSH7007、左上がSH7020（北から）



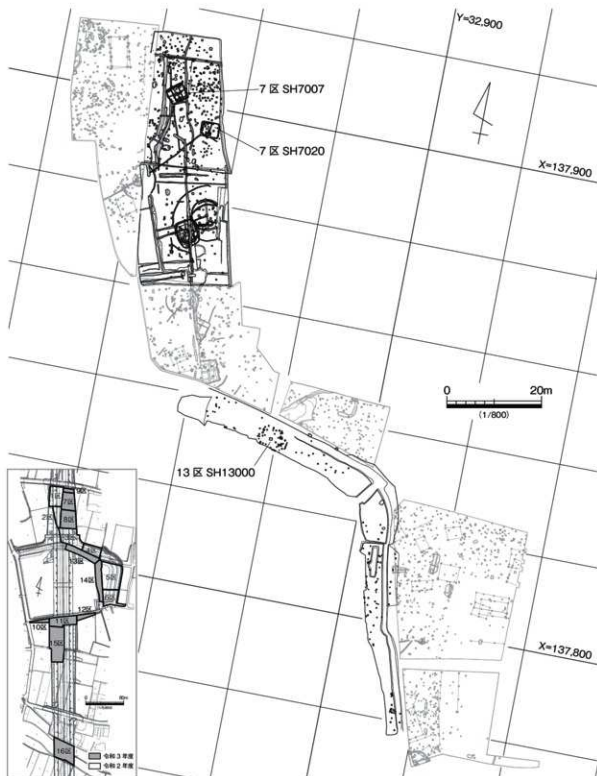
写真22 16区全景（北から）



写真23 16区SD65 土師質土器杯出土状況（北から）

本遺跡の発掘調査は令和4年度も継続されるので、新たな調査成果や旧地形の検討結果などを踏まえて、弥生時代の岡田台地の様相や本遺跡が果たした役割について考えることが今後の課題である。

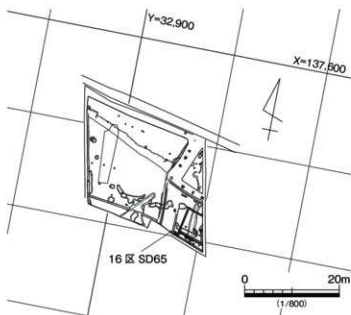
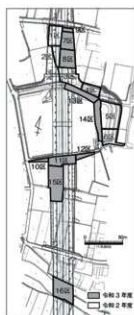
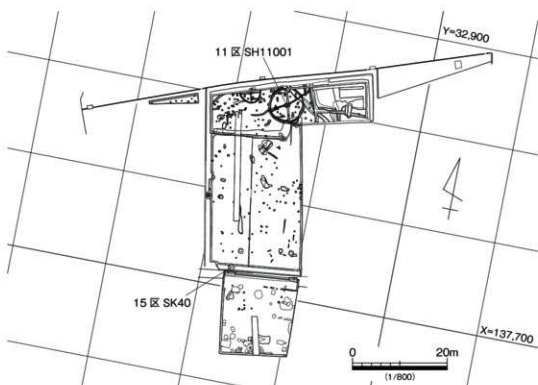
鎌倉時代～室町時代の集落跡は、昨年度確認された遺跡の北側だけでなく、中央部南寄りでも展開することが明らかになった。本遺跡から北へ約500m～1km離れた位置には、沖南遺跡、沖遺跡、名遺跡がある。丸亀平野南端部に所在するこれらの遺跡では平安時代終わりごろ～江戸時代前期にかけて集



第12図 遺構平面図1 (1/800)

落が形成され、存続する。また、条里地割の坪界溝が平安時代終わりごろ以降に掘削される。このように本遺跡の周辺地域では、平安時代終わりごろ以降に集落の形成と土地開発が進展したことがうかがえる。

このため、今後は各遺跡の実態把握と合わせて、遺跡群の関わりという観点からも本遺跡付近の地域開発について検討する必要がある。



第13図 遺構平面図2 (1/800)

## 沖南遺跡

沖南遺跡は丸亀市飯山町上法軍寺に所在する遺跡である。調査地は丸亀平野の東部に位置し、岡田台地の下(北側)の平野に立地する。周辺には北から西に30°傾く方向を基にした条里型地割が広がっている。本遺跡の北方約300メートルには条里地割に平行する中世の溝群が検出された沖遺跡、さらに北方約500メートルには、古墳時代後期の竪穴建物跡や古代の掘立柱建物跡、水田を検出した名遺跡が存在する。

本遺跡は国道438号道路整備に伴って令和元年から調査が行われており、今年度の調査で3年度目を数える。過去の調査では、弥生時代後期の溝状遺構、古代末～中世の集落跡が検出されている。今年度の調査では、弥生時代の河川跡、中世の集落跡が検出された。



第14図 遺跡位置図(1/25,000)

### 弥生時代

河川跡(オレンジと黄色で着色した部分)が検出されたのは、2区と3区の西方である。堆積状況などから自然にできた河川とみられ、蛇行しながら南方から北方へ流れている最中に複数箇所で見分れている。調査区の南方には、岡田台地に挟まれた谷があり、台地の上で集まった水が谷に流れ、そこから遺跡へと流れていたと考えられる。

遺物の多くは河川の支流である2区で多く出土しており、出土した土器は弥生時代後期から古墳時代前期の年代が与えられる。

### 中世

本遺跡の南方を東西に横断するように溝状遺構が検出された。単一の溝が横断しているのではなく、3条の溝が重複しながら存在する。いずれの溝も調査区外へ延びるため溝の全幅は不明だが、調査区内で最大5メートルの幅がある。SD1067(赤色で着色した溝)が最下層にあり、SD1034(緑色で着色した溝)とSD1041(青色で着色した溝)がほぼ併存している。深度としては、SD1041、SD1034、SD1067の順に深くなり、完掘した時点で最も深い部分は90センチの深さがあった。一部弥生時代の河川跡と重なっていることから、河川跡が途絶えてから溝が作られたものとみられる。岡田台地に挟まれた谷を流れてきた河川跡と異なり、岡田台地上で集まった水が標高の低い遺跡の方へ流れ、溝の中に落ち込むことで集水していたと考えられる。溝からは多種多様な土器や木札、動物骨などが出土した。それらを参照すると溝群は平安時代後半から鎌倉時代に機能していたと考えられる。この溝群から北へ30メートルのところ令和2年度の調査で見つかった12世紀から13世紀前半に開削、埋没したと考えられる坪界溝がある。近隣の発掘調査が待たれるが、令和2年度に見つかった坪界溝と今年度見つかった溝群が合流する可能性が指摘できる。

溝跡以外の中世の遺構として、溝跡群から北へ約9メートル離れたところで4棟の掘立柱建物跡が重

なるように検出された。建物跡の周辺からは遺物が出ていないため明確な年代は提示できない。

#### 近世・近代

1区からは近世・近代の溝状遺構を検出している。近代のものは、遺跡発掘前に建っていた住宅に付設されていたものであろう。

#### まとめ

今回の調査では、弥生時代の河川跡と、平安時代後半から鎌倉時代にかけての集落跡が確認された。

令和2年度の調査では、軒瓦や多くの輸入陶磁器類が確認されるなど、近隣に所在する法熱寺に関係した有力者が座した集落を想定できる結果が得られた。しかし、本年度の調査では、有力者が座した集落を想定できるような結果ではない。遺構の南方と西方で検出した溝群であったり河川跡などが原因となり集落の拡張がされなかった可能性も想定できるが、いずれも推測の域をでない。



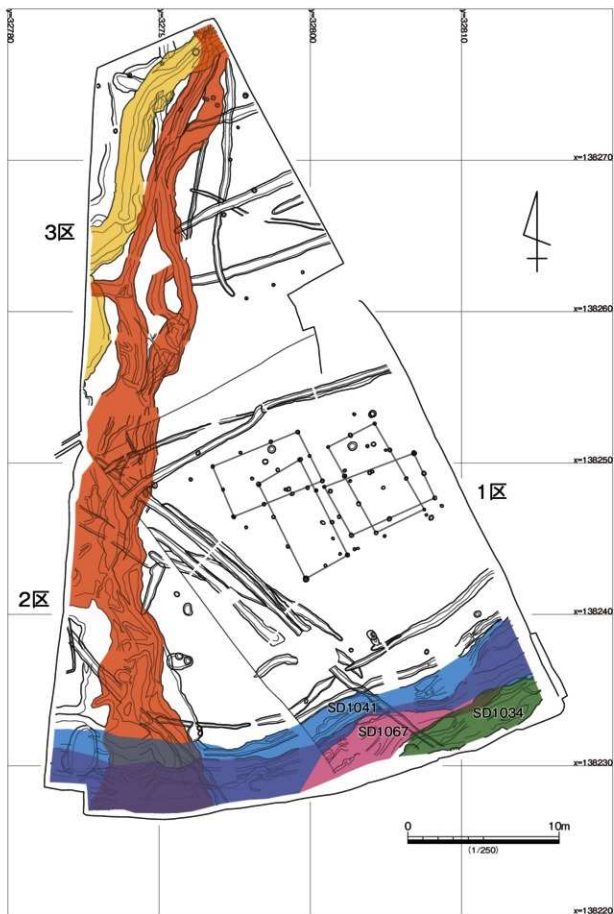
写真 25 中世の建物跡検出（北から）



写真 24 弥生時代の河川跡完掘（南から）



写真 26 2区南部溝群完掘（東から）



第 15 図 遺構平面図 (1/250)



おうみなかむら  
青海中村遺跡

青海中村遺跡は坂出市青海町に所在する遺跡である。周囲の地形をみると、北に北峰、南に五色台が聳え立ち、その中央を青海川が西に向かって流れている。青海中村遺跡は、この青海川によって開かれた谷底低地上に立地する。

遺跡の周囲を見渡すと、中世の経塚とされる中村経塚が北にあり、古墳時代後期の横穴式石室を有する中村古墳が北方の丘陵上に築かれているほか、東方約600 mには14世紀から15世紀前半にかけての集落跡が確認された青海神社下遺跡がある。また、近世以前は遺跡の西方約1 km付近まで海が湾入しており、弥生

時代後期の製塩遺跡である高屋遺跡や古墳時代前期の積石塚をもつスベリ山古墳群、古墳時代後期の初期横穴式石室を有する雄山古墳群が広がるほか、古代には松山津が付近に存在したと推定されている。このように、遺跡の西方では海を活かした生業や交易が古来より行われ、これらを統括する政治権力が出現していたと考えられる。

遺構面は1面で、基本層序は、第1層：表土、第2層：県道造成時の花崗土、第3層：遺構面、第4層：ベース層の大きく4層に分かれる。県道造成時に激しい攪乱を受けており、県道造成時の花崗土直下に遺構面が広がるが、場所によっては攪乱を免れ、造成前の層序が残っている調査区もあった。3区南壁では、①表土②県道造成時の花崗土③近現代の耕作土④近世の耕作土⑤中世後半～近世初頭頃の耕作土⑥遺構面⑦ベース層の計7層に分かれる。

今回の調査では、調査区を6区に分けて設定し、中世の集落跡と近世の出水を検出した。

### 1. 中世

柱穴跡、土坑跡、楕円形土坑跡などが確認された。柱穴跡は1・2区で多く確認されており、遺跡西部に集落の中心城があったと想定できる。しかし、調査区が狭かったこともあり、掘立柱建物跡の検出には至らなかった。柱穴跡から、土師質土器足釜の脚部などが出土しており、13世紀後半以降のものと考えられる。

楕円形土坑跡は3区で確認し、規模は長軸3.5 m、短軸1.2 m、深さ12 cmである。埋土は1層でベース層を掘り込んで造られている。埋土には炭化物が含まれ、とくに中央部に集中して含有されていた。掘削を進めると、焼土が現れ、ベース層上面には被熱痕が残っていた。これらから、この遺構は焼成遺構と考えられるが、焼成室以外が削平されているため、具体的な構造は不明である。ただし、焼土や被熱痕をみると、低火度焼成であったと想定され、炭窯や土師質土器焼成遺構などのようなものであった可能性が考えられる。埋土中より、土師質土器足釜の口縁部が出土しており、13世紀後半から14世紀代の年代が与えられる。



第16図 遺跡位置図 (1/25,000)

## 2. 近世

出水などを確認した。4区で検出した出水は円形の平面プランを有し、直径約5m、深さ約3mの規模を誇る。壁面は人頭大の安山岩による石積み、底面には小礫が敷き詰められていた。掘削中も湧水が多く噴き出していたが、これは周囲の五色台系山地の水分が、遺跡周辺の谷底低地で伏流水として集められたためであり、出水はこれを狙って掘られたと考えられる。降雨量が少なく、水不足に陥りやすい讃岐では、河川や溜池と出水を組み合わせることで、灌漑用水として利用しており、この出水も灌漑用水として用いられたと想定される。また、出水内部に「L」字形の石組みが組まれており、補修を施しながら利用され続けたことが分かる。その後、出水は埋め戻され、これを横切るような形で石組み溝が設けられている。

出水からは陶磁器類や瓦、土師質土器などが出土しており、江戸時代後期にあたる18世紀後半から明治時代にかけてのものである。つまり、この出水は18世紀後半に築造され、明治時代に廃絶したものと考えられる。出水が明治時代に廃絶した背景には、溜池の増設などによる灌漑水路網の再編を想定することができ、あくまで補助的な水源にすぎない出水は役割を終えたと考えられる。出水廃絶後に設けられた石組み溝は、その後、昭和50年代の県道建設直前まで使用されていたようである。

## 3. まとめ

以上、青海中村遺跡の調査成果について概観してきた。結果として、遺跡の西側に13世紀後半から14世紀にかけての集落跡が広がることと、江戸時代後半から明治時代にかけての出水を確認した。

青海中村遺跡や青海神社下遺跡で検出された中世集落はいずれも谷底低地上に立地している。しかし、青海町内に現在広がっている集落は丘陵上に営まれており、立地的には隔絶した在り方を示



写真 27 1区完掘(北西から)

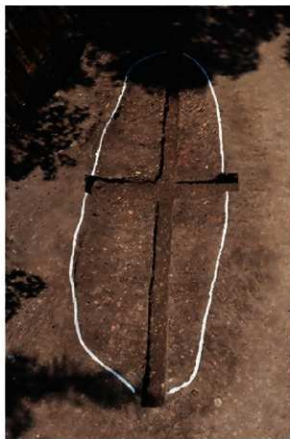


写真 28 3区楕円形土坑完掘(南東から)

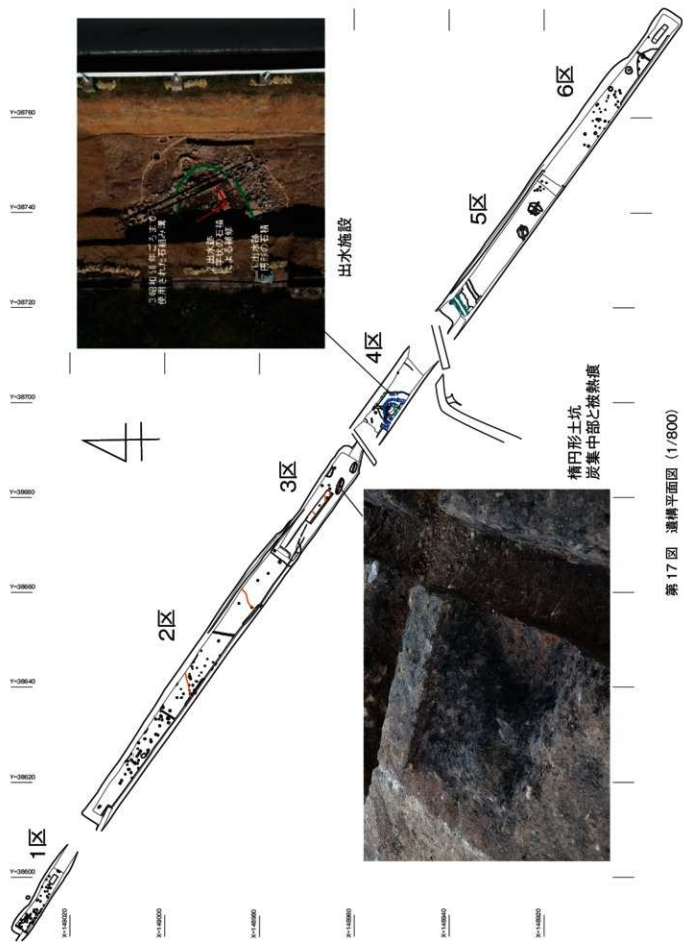


写真 29 4区出水施設(南から)

している。ここで、青海中村遺跡3区南壁土層をみると、遺跡廃絶後すぐに耕地化しており、県道建設直前まで耕作地であったことが分かる。つまり、中世では谷底低地上に集落が営まれるものの、その後は耕地化し、あるタイミングで丘陵上へと集落が移ったと想定できる。

青海町内に残る石造物をみると、14・15世紀のものもあるが、16世紀以降のものが大半を占めている。これらの多くは五輪塔であることから、16世紀以降に青海町内への人口流入が活発化したと想定できる。そして、近世にため池が整備され、水源が確保されると、谷底低地の耕地化がいつそう進行し、丘陵上の集落と谷底低地の耕作地という現在の青海町の景観が成立したと考えられる。

とはいえ、狭小な谷筋に立地する青海町内では慢性的な水不足が発生したと考えられ、これに対応するために出水を掘ったと想定される。青海中村遺跡周辺では、上記の背景の下、18世紀後半に出水が設けられ、明治時代まで付近の田畑を潤したと考えられる。



第17図 遺構平面図 (1/800)

## 2 普及・啓発事業

### (1) 展示

#### ① 香川県埋蔵文化財センターでの展示

タイトル	場所	会期
遺跡・遺物からみた香川の歴史	第1展示室	4月1日～3月31日
讃岐国府跡ヒストリア2ー讃岐国府跡探求事業の調査成果ー	第2展示室	5月10日～7月7日
香川県埋蔵文化財センター発掘調査速報展ー令和2年度の調査ー	第2展示室	7月16日～9月14日
令和3年度四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 四国の風土と暮らしー山から四国を眺めてみたー	第2展示室	10月4日～12月12日
古代の讃岐	第2展示室	地元関係者対象内覧会 令和4年3月30日 一般公開 令和4年4月8日～

第9表 展示一覧

一般			団体							合計			
大人	子ども	計	団体数				構成員数						
			一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	一般	高校生		小・中学生	幼稚園	計
515	78	593	2	0	5	0	7	83	0	109	0	192	785

単位：人

第10表 入館者数一覧

※5/15（土曜日）～5/31（月曜日）、8月14日（土曜日）～9月30日（木曜日）は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館

#### ② 香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

タイトル	場所	会期	観覧者数（人）
讃岐国府跡ヒストリア2ー讃岐国府跡探求事業の調査成果ー	宗吉かわらの里展示館	7月17日～8月22日	396
讃岐国府跡ヒストリア2ー讃岐国府跡探求事業の調査成果ー	坂出市郷土資料館	8月26日～9月26日	60
讃岐国府跡ヒストリア2ー讃岐国府跡探求事業の調査成果ー	高松市讃岐国分寺跡資料館	10月5日～12月26日	508
讃岐国府跡ヒストリア2ー讃岐国府跡探求事業の調査成果ー	観音寺市中央図書館	1月11日～1月23日	100
讃岐国府跡ヒストリア2ー讃岐国府跡探求事業の調査成果ー	香川県立図書館	2月22日～3月13日	23,193
遺跡でたどる香南町の歴史	高松市香南歴史民俗郷土館	6月5日～27日	293
よみがえる鉄器ー高松市茶臼山古墳の副葬品ー	高松市歴史資料館	11月9日～28日	961
	松山市考古館	6月1日～7月4日	1,198
令和3年度四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 四国の風土と暮らしー山から四国を眺めてみたー	高知県埋蔵文化財センター	7月18日～9月12日	960
	徳島県立埋蔵文化財総合センター	1月7日～3月13日	968
合 計			28,636

第11表 センター外展示一覧

#### (2) 発掘現場現地公開

番号	内 容	実施日	対象	参加者数（人）
1	岡遠田遺跡地元説明会	3月1日～4日	一般	28
2	沖南遺跡地元説明会	3月1日～4日	一般	15
合 計				43

第12表 現地説明会一覧

### (3) 講師の派遣

#### ① 体験講座など

	依頼者	実施日	内容
1	古代アートマルシェ実行委員会	7月18日	勾玉作り

第13表 体験講座一覧

#### ② その他

	依頼者	実施日	内容
1	香南コミュニティセンター	6月14日・22日	講演
2	香川県立高松高等学校	6月29日	講演
3	高松短期大学	7月15日	講演
4	香川県立高松北高等学校	7月16日	講演
5	高松大学・高松短期大学地域連携センター	8月23日	講演
6	香川県立高松北高等学校	9月24日	講演
7	高松大学・高松短期大学地域連携センター	10月18日	講演
8	綾川町滝宮公民館	11月10日	講演
9	府中社成会	11月11日	講演
10	高松大学・高松短期大学地域連携センター	11月15日	講演
11	放送大学	11月27・28日	講演
12	南あわじ市教育委員会	12月5日	講演
13	高松大学・高松短期大学地域連携センター	12月13日	講演
14	高松大学・高松短期大学地域連携センター	12月20日	講演
15	観音寺市大野原中央公民館	1月14日	講演
16	高松大学・高松短期大学地域連携センター	1月17日	講演
17	九龍産業大学	3月15日	講演
18	飯山南コミュニティ協議会	3月24日	講演

第14表 講演等への講師派遣一覧

### (4) 体験講座

7月27日・29日、11月21日に体験講座を行った。

実施日	タイトル	講師	人数(人)
7月27日・29日	ふるさと学習 小中高校生のための考古学講座	実物の考古資料に触れながらの講義および瓦ペンダントづくり、印鑑づくり	19
11月21日	ふるさと学習 小中高校生のための考古学講座	実物の考古資料にふれながらの講義および瓦の制作	7
合 計			26

第15表 体験講座実施事業一覧

### (5) 考古学講座

専門職員が講師を務める考古学講座を3日(第1・2回は同日、午前・午後の2回、第3回は午前1回)開催した。

回	実施日	タイトル	講師	人数(人)
1	7月3日	祈りと呪いの考古学	北山健一郎	41
2	11月6日	香川県の石器と石材の関係について	小野秀幸	18
3	1月22日	西国の近世大名墓	蔵本晋司	12
合 計				71

第16表 考古学講座一覧

### (6) 人材育成講座

高校生を対象とした文化財保護を担う人材育成講座を10月31日に行った。

実施日	講座名	場所	講師	人数(人)
10月31日	香川県立高松西高等学校・香川県埋蔵文化財センター連携事業 高校生を対象とした文化財保護を担う人材育成講座	国指定史跡 石清尾山古墳群	徳島文理大学教授 大久保徹也 高センター 信里芳紀	5

第17表 人材育成講座一覧

(7) まいぶんボランティア活動

まいぶんボランティアは、普及事業の補助などを行った。19名が登録し、8回、延べ63名が活動に参加した。

(8) 新聞記事掲載

四国新聞に「ディープKAGAWA2021埋蔵文化財センター編」として、計23回の連載を行った。埋蔵文化財センター発掘調査速報展について紹介する「発掘調査速報展」(1回)、令和3年度から実施している地域総合調査について紹介する「地域総合調査」(7回)、令和3年度発掘へんろ展に関連して、山の遺跡や出土品について紹介する「山から四国を眺めてみた」(4回)、専門職員が自身の発掘調査の経験や調査研究などについて紹介する「発掘現場で考えた」(7回)、第2展示室改修オープンについて関連して古代遺跡を紹介する「香川の古代史最新線」(4回)で構成した。

(9) 資料の貸出・利用

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館・その他公共団体	出版社・新聞社・その他民間企業	個人・他	合計
遺物	1	0	7		8	16
写真・パネル	1	0	8	6	1	16
レプリカ・模型	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	15	6	9	32

第18表 資料貸出・利用一覧(数字は件数)

(10) 職場体験学習・インターンシップ

	学校名	期間	内容	人数(人)
1	高松短期大学	8月17日～9月2日	職場体験	4
2	高松市立香東中学校	10月5～7日	職場体験	5
	合 計			9

第19表 職場体験学習・インターンシップ一覧

(11) 刊行物

『香川県埋蔵文化財センター年報 令和2年度』

『いにしへの讃岐』106号・107号・108号

(12) ホームページ

ホームページ (<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/maibun>) の更新を随時行った。

トップページビュー数 14,232

### 3 讃岐国府跡調査事業

「香川県文化芸術文化振興計画」に基づき平成21年度から讃岐国府跡探索事業を実施し、平成30年度からは讃岐国府跡探求事業を実施し、令和3年度から新たに讃岐国府跡調査事業を実施している。主な調査事業として讃岐国府跡の遺構内容の確認を目的とした発掘調査を実施した。

今年度は、国史跡に指定された間法寺東方地区の北西約250m、推定南海道である「セイリュウ」と呼ばれる東西道路を西に延長した場所で発掘調査を実施した。調査の結果、東西方向の切り通し状の遺構を確認した。この遺構の底面からは鎌倉時代から室町時代（13～14世紀）の遺物を含む溝状遺構などが見つかり、切り通し状遺構が鎌倉時代以前に掘削されたことが確認されたが、道路遺構（南海道）かどうかは確定できなかった。また、鎌倉時代から室町時代の溝状遺構や江戸時代の埋め立て土の中から、古代の遺物が少量出土したことから、近隣に古代の建物遺構が存在した可能性があることがわかった。

讃岐国府跡を活用した情報発信事業として、第3回讃岐国府まつり（主催：讃岐国府まつり実行委員会）の関連企画として、小中高校生のための考古学体験講座「讃岐国府跡と瓦」開催した。

#### (1) 地域との交流

例年、地域との交流企画として、「水のフェスティバル in 府中湖」と「讃岐国府まつり」に参加している。「水のフェスティバル in 府中湖」においては讃岐国府跡周辺のウォーキングや出前展示を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本フェスティバルは中止となった。「讃岐国府まつり」においては讃岐国府跡発掘現場公開、鼓岡文庫展を行った。

#### (2) 情報発信

内容	回数
ホームページへの記事掲載	1
情報誌「いにしへの讃岐」への記事掲載	3
新聞への連載記事掲載	1
テレビ出演	1

第20表 情報発信一覧

#### (3) 関連行事

行事名	会場	実施日	参加人数（人）	種別
讃岐国府跡ヒストリア2	香川県埋蔵文化財センター	5月10日～7月7日	99	展示
讃岐国府跡ヒストリア2	宗吉かわらの里展示館	7月17日～8月22日	395	展示
讃岐国府跡ヒストリア2	坂出市郷土資料館	8月26日～9月26日	60	展示
讃岐国府跡ヒストリア2	高松市讃岐国分寺跡資料館	10月5日～12月26日	508	展示
讃岐国府跡ヒストリア2	観音寺市中央図書館	1月11日～1月23日	100	展示
讃岐国府跡ヒストリア2	香川県立図書館	2月22日～3月13日	23,193	展示
小中高校生のための考古学講座「讃岐国府跡と印籠」	香川県埋蔵文化財センター	7月27日	12	講演・講座
小中高校生のための考古学講座「讃岐国府跡と瓦」	香川県埋蔵文化財センター	7月29日	7	講演・講座
小中高校生のための考古学講座「讃岐国府跡と瓦」	香川県埋蔵文化財センター	11月21日	7	講演・講座
第3回讃岐国府まつり	讃岐国府跡周辺	11月21日	100	現場公開・展示

第21表 関連行事一覧